



。。。国旗と町旗 卒園式の練習から。。。

～園歌の3番までの歌詞に～とあります。

～訓子府で生まれ ～訓子府で育ち ～訓子府に生きる

卒園式、卒業式に国旗と町旗が掲げられるのはどうしてか？

わくわく園の1年間の予算は、約1億5千6百万円です。国と町が負担しています。一人当たりになると約110万円になります。0～5歳児まで通うと660万円です。

高級車一台分です。義務教育の小学校と中学校を含めると、総額一人当たり2千万円くらいになります。公立なので全て税金で賄われます。子どもは未来の宝物です。町づくりは人づくりです。決して高い投資ではないと思います。

「卒園式では、はじめの礼(修礼)があります。『こうして卒園式を迎えられたのは、訓子府町の皆さんと日本の国民の皆さんのおかげです。』と感謝の意味を込めて礼をするのです。国と町の象徴である旗を掲揚するのは、そのためです。ご来賓の町長さんや教育長さんに立派に育ってみんなの姿を見てもらいましょう。」と話しました。

「卒業(園)式を見れば、その学校の教育力がわかる」とコードモンで書きました。恥ずかしくないように毎日練習しています。練習で完璧でも、本番は緊張して入場のとき手と足が一緒になるかもしれませんが、それもまたこども園の卒園式のいいところです。



3・11 東日本大震災から13年



13年前、網走の潮見小学校の校長室で、卒業式の式辞を書いていた。大きな揺れに驚いて、すぐに職員室の大型テレビを付けました。それから先生方を全員集めました。大津波が町を襲う信じられない光景に釘付けになり言葉を失いました。

数日後、卒業式に震災で亡くなった人を追悼する黙とうを入れることにして、式辞の内容を書き直すことにしました。「皆さんは、復興の担い手にならなければならない。」と式辞で子どもたちに語りかけました。あれから13年が経ちました。今の小学生はVTRで見るだけで、東日本大震災を知りません。被災地では復興は進んでいますが、未だ不便な生活を強いられています。完全復興には10年では足りません。20年、30年、それ以上かかります。

今年の元日に能登半島地震が起きました。残念ながら自然災害から逃れることはできません。しかし、教訓を生かすことはできます。昔と違い、ITやAI、スーパーコンピューターがあります。今の子どもたちには、一生懸命勉強して、これらを駆使して被害を最小限に止める努力をしてほしい。当時の卒業生は25歳になりました。消防士になった子がいます。震災のときに、真っ先に駆けつけて、命がけで人々を救った消防士に、自分もなりたいたいと思ったそうです。

毎週水曜日は、フッ化物洗口でお口をくちゅくちゅする日



クラスの代表が職員室に来て、「フッ化物洗口をするので、見に来てください。」というので、ビデオを撮影に行きました。「園長先生は、子どものころ、虫歯になって歯医者さんに行ったら、『虫歯があると長生きできないよ。』と言われた。だから歯を大事にしてね。」という話をしたら、帰りに「園長先生、あと何年生きられるの？」と聞かれました。「????」

寺町先生とのお別れ式 3月15日(金)

職員交流で4月から姉妹都市の津野町へ行く寺町先生を子どもたちに知らせました。泣き出した子がいました。

「寺町先生、津野のこども園でがんばってネ！」

「いろんなこと学んで、2年後帰ってきます！」



*** 書画展 3月24日(日)まで***

2歳児さん：「園長先生の絵を見に公民館に行ってきたよ。アップルの絵があったよ。すずらん印のみその絵もあったよ。だれがかいたの？」 「????」 多くの方に足を運んでもらっています。ありがとうございます。